



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 27 回：いつまでも新たなチャレンジを続ける行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。

第 27 回は、筑紫野市で建設業を中心とした許認可業務に長く携わり、現在は福岡県行政書士会管理部副部長でもある『行政書士村瀬達也事務所 村瀬達也会員』を訪ねました。

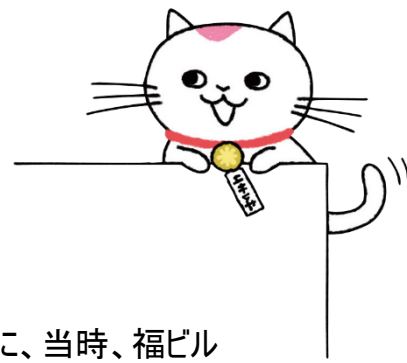
広報部(以下、「広」): 本日は取材に応じいただきありがとうございます。まずは、所属支部、登録年次、取扱業務を教えてくださいませんか。

村瀬会員(以下、「村」): 筑紫支部所属で、登録は平成 13(2001)年 5 月 11 日です。試験は平成 12(2000)年に合格しました。業務は 9 割が許認可で、そのほとんどが建設業のお客様です。付随して産廃関係の業務をはじめとして、その他の許認可業務等にも対応しています。相続などの民事業務は、既存の取引先様から「親が亡くなって・・・」などのご相談をお受けしたときには対応させていただくこともありますが、単体でお受けすることはほとんどありません。事務所に以前、補助者や娘に手伝ってもらっていましたが、今は AI を駆使しながら一人で対応しています。



広: 行政書士として登録される前は、どのようなお仕事をされていたのですか。

村: 地元福岡の出身で、西南学院大学の法学部に進みました。アルバイトばかりやって、勉強はまったくしませんでした(笑)。大学を卒業して上京、今で言うところの IT 企業に就職し、証券会社の投資信託の運用にかかわるシステムを開発していました。その後、(株)セブンイレブン・ジャパンに転職し、担当店を定期的に回るスーパーバイザー的な仕事をしていました。その頃は毎週月曜日の夜に東京へ向かい、翌火曜日に本社で会議を終えて福岡に戻るといったサイクルの繰り返し、休みもあまりなく、今思い出してもそれなりにきつい仕事でした。



広:そこから行政書士を目指されたきっかけは何だったのでしょうか。

村:30 歳になったころ、会社勤めに疲れ果てていたんです。そんな折に、当時、福ビルにあった丸善という書店で「あなたも行政書士になれる」という類の本を立ち読みしまして、「こんな風に独立して仕事ができたら、毎日会社に行かなくてもいいのかも…」と、今となっては恐ろしいほど甘い考えが芽生えてしまいました(笑)。

実は、その前年に結婚していたのですが、受験勉強に専念するため、無責任にも会社を辞めてしまいました。その後に妻が妊娠、付き添って産婦人科へ行った際、妻が診察を受けている間に空いているベッドを見つけ、「お、ベッドが空いた。ラッキー」と寝転がって過去問を解いていたことを覚えています。それから半年ほどの勉強で、とりあえず平成 12 年の試験に合格できました。合格発表の日、福岡ではかなりの雪が降りました。赤ん坊だった長女を抱っこして、県庁の合格掲示板を見に行ったのは、いい思い出ですね。

広:登録されて最初の 1 年は、どのような日々でしたか。

村:平成 13 年に、春日原の自宅マンションを事務所として南福岡支部で登録しましたが、当初はほとんど開店休業状態でした。行政書士業務は少なく、サラリーマン時代の貯金を食いつぶしながら、深夜の時間帯にパン工場や配送センターでアルバイトをしながら生活していました。恥ずかしいことに、4~5 年は事務所経営を軌道に乗せることができず、「親に大学まで出してもらったのに、俺はもうダメかな…」と考えたこともありました。

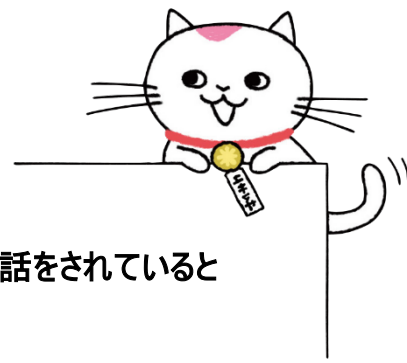
広:初めてのお仕事は覚えていらっしゃいますか。



事務所の一角には「ユキマサくん神社」。
皆様、お賽銭をあげにきてください。

村:開業直後に、サラリーマン時代の取引先だった保険会社の方から「契約書を作成したいというお客様がいるので、相談にのってもらえませんか」とご紹介をいただいたのが初仕事です。もちろん契約書の作成はやったことはありませんでしたから、書店で分厚い本を買ってきて、ひたすら参考にしました。

その仕事は小さな一案件でしたが、そこをひとつの起点としてお仕事のご紹介も頂きました。その後、時の経過とともに、事務所ホームページでの出会い、お取引先や他士業さんからのご紹介なども頂きながら、少しずつ仕事が増えていった感じです。小さな案件から大きく広がっていくことを実感しています。



広:今は管理部副部長として、入会式に来られた方にそのころのお話をされていると伺いました。

村:はい、「私の失敗談」もお話しています。開業した当初、私は支部や県会の催しに出ることに積極的ではありませんでした。「独立したのに、同業者と交流して何の意味があるのだろうか」とも考えていたんです。それは全く間違った考えで、そのせいで軌道に乗るのが数年遅れた・・・と、反面教師として聞いてください、と(笑)。

日々の業務をしていると、必ずと言っていいほど、調べても分からないケースにあたります。今はAIも進化し、ネット等で調べれば沢山の情報は出てきますが、それだけでは不十分です。いわゆる「生の情報」は、実際に経験した方にお尋ねしないと分かりません。そんなときに頼りになるのは周りの先生方ですから、日頃から交流を持っておくことは非常に大切です。ただ、相手の先生にはお忙しい中で時間を割いていただくわけですから、できる限り簡潔に、節度をもってお尋ねするようにしてください。

広:今の事務所に移られたのは、いつごろだったのでしょうか。

村:開業後、なかなか事務所経営が軌道に乗らず、このままではまずいという危機感がありました。もともと私の実家が店舗形態でしたので、そこへ移転して、平成18年から筑紫支部に所属しています。県道沿いの交差点の角に大きな看板を掲げて再スタートです。それが今の事務所ですが、当時は看板を掲げることに勇気が必要でした。

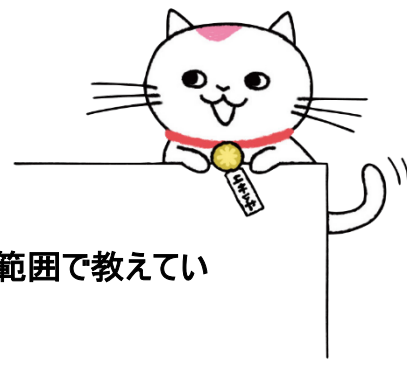
移転すると事務所調査がありますよね。ちょうど支部旅行の前だったので来られた当時の支部長さんから、「支部旅行がありますので、ぜひ参加してください」と言われまして。本音は絶対行きたくなかったのですが(笑)、移転してきたばかりで断れず、結局参加しました。でも、そこから横のつながりが生まれたので、結果的にはそれが良かったですね。会員さんとの交流は直接的に業務の受注につながることはないかもしれませんが、そういう環境に身を置くことが大事だと思います。

広:建設業の許認可には、どんな面白さがありますか。

村:行政書士の目線で言うと、ストック型ビジネスというところでしょうか。一回きりで終わらず、毎年決算変更届があり、5年ごとに更新手続もある。お取引先様が大きくなっていかれると、業種追加や経営事項審査、入札、産廃の許可も取ろうか・・・というお話も出てきます。お客様が成長される中に私も一緒にできるのは、ありがたいことです。



県道31号線沿いに事務所があります。
大丸別荘さんから次の信号の角です。



広:長いキャリアの中で、印象に残っているご依頼を、差し支えない範囲で教えてくださいませんか。

村:登録して25年になりますが、昨年の11月、建設業の業務で過去いちばんのミスをやってしまいました。私の単純な判断ミスが原因で、しばらく眠れない日々が続きました。お客様からお叱りも受けましたが、ご理解とご協力もいただいて、なんとか大きな痛手にならずに済みました。どうやってリカバリーするか、多くの行政書士会員にも尋ね、助けもいただきながら、今年の頭によりやく切り抜けられたんです。そういう意味でも、やはり横のつながりが有難かったです。

お客様にとって、許可を継続できるかどうかは死活問題です。建設業許可でいえば、その許可がなければ一定以上の額の工事は請け負えませんから、この仕事の責任の重さをあらためて感じているところです。

広:支部や県会の活動には、どのように関わってこられましたか。会務に関わる意義もあわせてお聞かせください。

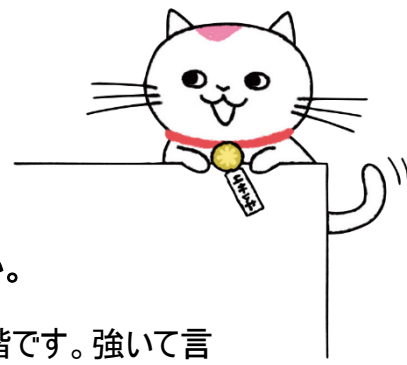


村:17~18年ほど前からでしょうか、筑紫支部では理事、支部長を務め、県会では市民相談センター運営部、管理部でそれぞれ部長を務めさせて頂きました。現在、管理部の副部長を務め、管理部には通算8年ほど関わらせてもらってます。

管理部は、会員の^{こうき}綱紀に関わる対応をすることが多い部です。決して楽しい役回りではありませんが、そういう部署にいないと得られない経験と思って、あらためて自分の行政書士としての姿勢を見直す機会と捉えたいと考えています。

広:日々の業務で、道具やソフトの面で工夫されていることはありますか。

村:ここ数か月で、仕事のやり方が大きく変わりつつあります。今年の3月頃まで、私の次女に単純な入力作業を手伝ってもらっていたんですが、4月から就職で上京することになり、これは困った...と思っていたところに、作業の一部をAIがやってくれるようになりました。去年の今頃は「自分でプログラムを組めないかな」と考えていたくらいですが、AIの急速な進化もあって、単純作業がぐっと減りました。使い始めたきっかけは、3年程前に、以前勤めていた会社の同期から「村瀬くん、AI使ってる？すごいよ、これ」と言われたことです。OpenAIという名前がメディアにも大きく出てきた頃ですね。



広: 逆に、「ここは任せない」と線を引いているのはどんなところですか。

村: 正直なところ、まだあまり線を引かず、いろいろやらせてみたい段階です。強いて言えば、AI が出してきたものを鵜呑みにしないことでしょうか。AI はハルシネーションといって、もっともらしく間違ったことを言うことがありますからね。

あと、先ほどお話しした大きなミスも経験しましたので、チェックの仕組みを構築したいと思っています。自分が作ったものを自分でチェックすると、「間違いないだろう」という先入観が入って、私の頭のチェック機能が働かないことがあるんです。ですから、まず AI に点検させて、そのうえで人間がチェックする。私のチェックの前工程を任せたいというイメージです。

広: お休みの日は、どんなふうに過ごしておられますか。

村: 5年半ほど前からピアノを始めました(笑)。新型コロナが発生して外出できなくなった頃、リストの「ラ・カンパネラ」を弾けるようになったおじさんの動画を YouTube でみて超衝撃を受け、「俺もやろう!」と。鍵盤にすら触ったこともなかったんですが。



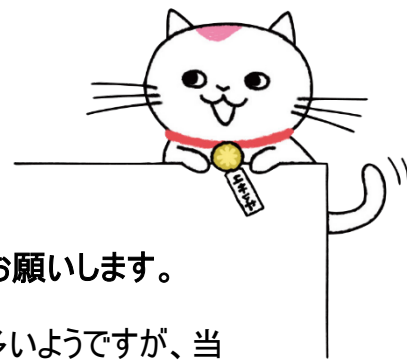
教室で先生に撮影してもらいました。
「Bill Evans が弾きたくて」という楽譜集です。

最初は独学で始めようとしたのですが、電子ピアノをパコパコ弾いていたら習いに行きたくなくて、今は毎週日曜日に教室へ通っています。教室のピアノを弾いていたら、本物が欲しくなってしまう、中古のアップライトピアノを買ってしまいました。中古だったけど50万円もしました(笑)。教室で最初に聞かれた「弾いてみたい曲は?」というアンケート用紙に、私はショパン、坂本龍一、Bill Evans と書いたんです。よくもまあ、ずうずうしくも書きましたが、発表会には10回以上出まして(出させられて)その3人の曲を一応弾くことはできました。とは言っても出演者の中で一番へたくそで、今でも手が震えますけど、夢の一步目は叶えたかな...って感じです。

それと健康も大切です。5年ほど前、一番忙しい時期に網膜剥離を患い、緊急手術と2週間の入院で大変な思いをしました。健康のため運動も心がけたいと思っています。

広: 先日は建設業経理士2級も受験されたと伺いました。

村: 先輩の行政書士から「すぐくためになる」と聞いていたので、受けてみよう。受験の申し込みはしていたのですが、やる気スイッチが入ったのは試験日まで1か月を切った頃でした(笑)。合格できたかどうかは別として、一所懸命になれた自分を感じられたのは良かったですね。日々の業務をこなすだけになっていたところに、チャレンジする火種を持てた気がします。仕事が忙しかったので、途中でやめようかとの考えもよぎりましたが、ここでやめたら嫌な気持ちが残ると思って頑張りました。



広:これから行政書士を目指す方、開業される方へのメッセージをお願いします。

村:行政書士になられる方は、多種多様なご経歴をお持ちの方が多いようですが、当初はその経験や人脈を活かされるのが良いと思います。私自身、会社勤めは10年弱でしたが、仕事への考え方、経験、仲間を得たことは大きな財産でした。役に立たない経験はないと思います。

あとは、やはり横のつながりを大事にしてほしい、会務にもできるだけ出たほうがいいですよ、ということです。AIの話もしましたが、AIが進化したとはいえ、結局は人間と人間の関係が大切です。

開業されたばかりの方は、不安が多いと思います。私も大変な時期が何度もありました。それでも、この仕事で娘二人を大学まで出して、今は二人とも東京で働いています。行政書士でご飯を食べさせてもらって、この資格には本当に感謝しています。軌道に乗せるまでには大変な面もありますが、やり方はいろいろあります。仕事はあるので、やり方次第で軌道に乗ってくると思います。

広:最後に、村瀬会員の今後の展望をお聞かせください。

村:許認可が中心ですので、若い経営者の方や、これから事業を始めたいという方に会うことがあれば、その方が大きくなっていくのをサポートできればと思っています。もちろん、いただいた仕事を正確にこなすことが大前提です。それが本音ですね。

広:本日は、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。



～行政書士プロフィール～

村瀬 達也(むらせ たつや)

登録年月日:平成13(2001)年5月11日

事務所所在地:筑紫野市武蔵四丁目1番1号

この記事は令和8年10月1日の情報です